

第2学年道徳学習指導案

日時 平成18年10月12日(木) 5校時

学級 2年B組(男11名 女16名 計27名)

指導者 教諭 山田 実

1 主題名 「相手の立場で」 内容項目 2 - (5)(個性や立場の尊重、謙虚、広い心)

2 資料名 「なみだ」 (出典「東京書籍 明日をひらく2」岩手県版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目 2 - (5)は、「それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、謙虚に他に学ぶ広い心をもつ。」と押さえている。

中学生の時期は、心身の発達が著しく、精神的にも不安定になりがちである。反面仲間意識も強まり、安易に同調したり迎合したりする傾向が見られるようになる。また、独りよがりな自分の考えや立場に固執し、級友と些細なことで衝突や摩擦を起こす事も多い。

そこで、望ましい自己を形成するためには、人それぞれに色々な見方や考え方があることを理解させ、他人の言葉に謙虚に耳を傾け、反省しようとする心構えや態度を育てることが、他を思いやる温かい人間関係を構築することにつながると考え本主題を設定した。

(2) ねらいに関わる生徒の実態について

学級全体としては、明るく元気があり、注意を促すと素直に改善できる生徒が多い。道徳の時間では自分と違う他人の意見にも耳を傾け、自分の考えと照らし合わせながら深めていこうとする姿勢を育てていくことが必要である。今年5月に実施した道徳性検査(NEW HUMAN)の結果は次のようになり、全国平均に比べて望ましい状況にあるといえる。

2 - (5) 寛容・謙虚の判定出現率(%) C: 発達が不十分 B: おおむね発達 A: 十分発達

	C	B	A
学級	0	30	70
全国	42	34	8

しかし、全国平均に比べ「信頼・友情」や「健全な異性観」は望ましい状況とは言えず、「寛容・謙虚」に関する部分でも、意識と行動のずれが見られる生徒も少なくない。日常生活を見ていると自己中心的な考え方の生徒も多く、人を傷つけるような言葉を使う生徒もおり、意識と行動がともなっていない様子がうかがえる。

本資料を通して相手の立場を理解し、広い心をもって望ましい人間関係を築いていく事の大切さを考えさせたい。

(3) 資料について

原題名は「尊い涙」。原作の4分の1を削除したものである。本資料は、学校でふとしたことから事故に巻き込まれ、指を砕いた作者が病院へ運ばれ、治療を受け帰宅する。そこでケガをさせたS君とその母親の訪問を受ける。不慮の事故ではあったが、主人公はあまりの痛さとやり場のない怒りから、加害者の涙まで疑ってしまう。しかし、自分の部屋で冷静に考えることができるようになり、今までの自分の考え方を反省し、他人を思いやる心、広い心が芽生えはじめた。そしてついには、ケガに負けないよう自分を奮い立たせながら次の日に登校した主人公の話である。

この資料を通して、望ましい自己を形成するためには、人それぞれに色々な見方や考え方があることを理解させ、他人の言葉に謙虚に耳を傾け、広い心で受け入れようとする心構えや態度を育てていきたい。

4 指導にあたって

本資料の前半部分では、作者がこらえきれぬほどの痛さと持っていき場のない憤りの中で、疑心暗鬼になってしまう気持ちを考えさせ、S君の母親の謝罪さえ素直に聞き入れない気持ちについて批判や共感をさせながら意見を交換し、作者の気持ちを追っていきたい。

しかし、そんな作者が、素直に自分を反省し謝罪を善意に受け止めるようになったのはどうしてかを問い、変容契機となったものをとらえさせたい。

後半部分で母親が作者に語りかける場面では、価値がプラスに変容した作者の心情を追体験させながら、「一番価値のある涙」とは何かを考えさせ、自分を素直に反省し、他人を思いやる心から出た涙であることを確認させたい。その後、自分の経験を振り返らせたい。

全体を通して、涙を流す場面を中心にすえた発問をすることで、S君の母親や作者の気持ちに共感させるとともに、生徒の様々な考えを引き出すきっかけとしていきたい。

5 本時の指導

(1) ねらい

それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、謙虚に他に学ぶ広い心を持つ。

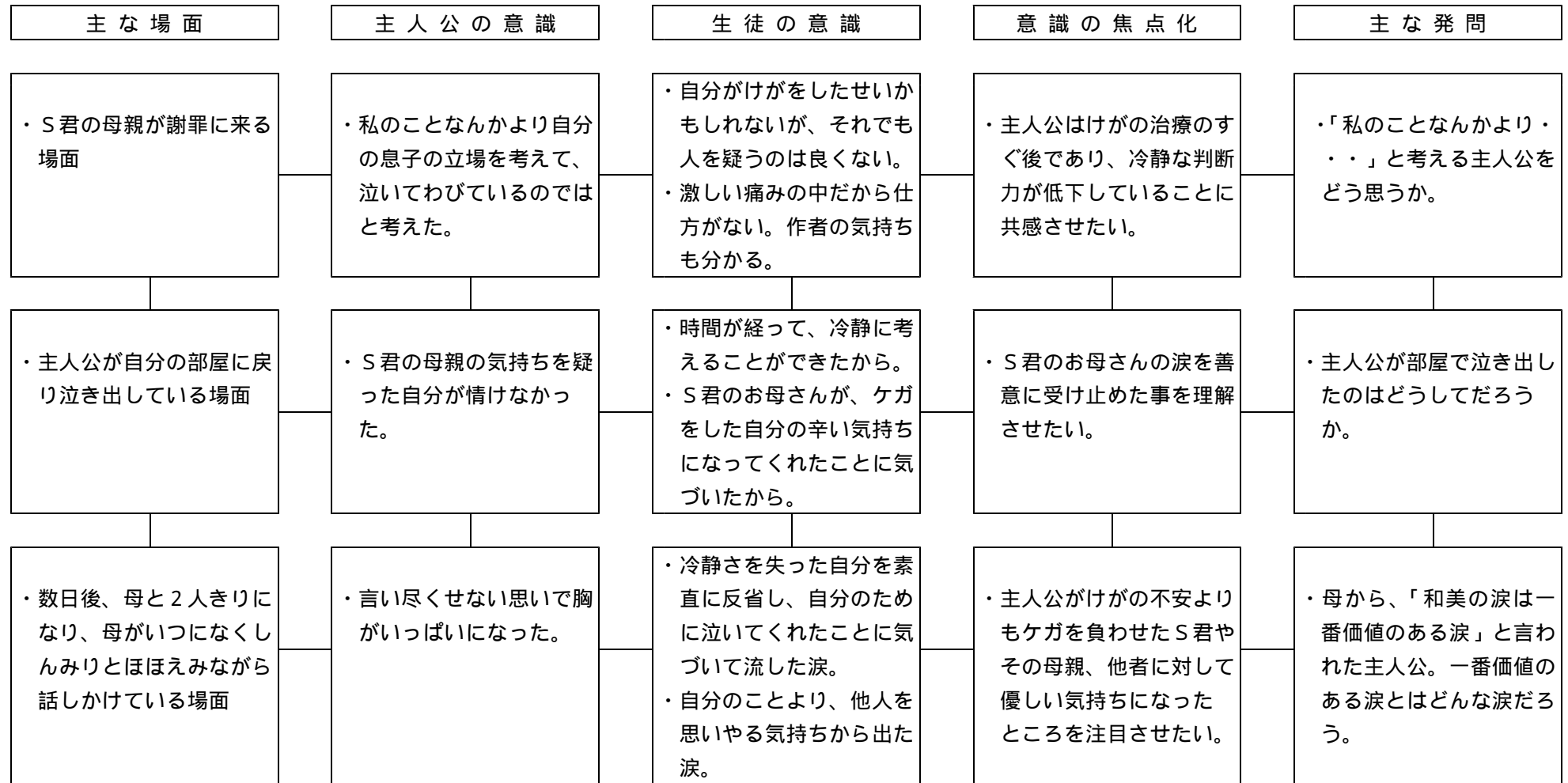
(2) 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される生徒の意識	指導上の留意点
導入 5分	1 資料に関わる質問をする。 今までどんなときに涙を流しましたか？	<ul style="list-style-type: none"> ・悔しいときに流した涙 ・悲しいときに流した涙 ・嬉しいときに流した涙 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒からすぐに出ないようなときは、教師が自分の体験などを話す。 ・涙に対して追体験を行う。
展開 40分	2 資料を読み、あらすじと登場人物について確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・あらすじの確認 ・ケガの程度を確認する 3 資料について、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・S君のお母さんはどんな気持ちで涙を流したのだろうか？ <p>「私のことなんかより・・・」と考えた主人公をどう思いますか。</p> <p>主人公が部屋で泣き出したのはどうしてだろうか。</p> <p>母から、「和美のあの涙が一番価値ある涙」と言われた主人公。一番価値のある涙とはどんな涙だろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・痛みがどっとおしよせてきた。 ・ジョリジョリと肉を切開する音 ・指先がズキズキと脈打ち、まるで体中の血が逆流したような感じ ・和美さんのことを考えた ・息子が悪いことをしたので申し訳ない ・すまない気持ちでいっぱい ・自分がケガをしたせいかもしれないが、それでも人を疑うのは良くない。 ・激しい痛みの中だから仕方がない。作者の気持ちも分かる。 ・時間が経って、冷静に考えることができたから。 ・S君のお母さんが、ケガをした自分の辛い気持ちになってくれたことに気づいたから。 ・S君のお母さんが深くと頭を下げているから。 ・冷静さを失った自分を素直に反省し、<u>自分のために泣いてくれたことに気づいて流した涙。</u> ・<u>自分のことより、他人を思いやる気持ちから出た涙。</u> ・<u>人の立場が分かる気持ちに変わった時に流した涙。</u> ・自分の行動を振り返りながら相手の立場に立って考える事。 ・失敗しても許してやる広い心をもつ事 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が範読する ・大けがをし、手術を受けた作者の状況を良く認識させる。 ・S君のお母さんの涙について、どのような気持ちから出たかを考えさせる。 ・主人公の気持ちに対して、どういうふうと思うのか生徒に聞き、共感する意見と批判的な意見を発表させる。最終的には共感させること。 ・なぜ、主人公が考えを変えられたのか、その理由を考えさせる。 ・作者が、辛い思いをさせられたにもかかわらず、S君のお母さんの立場になって、善意に受け止めたことを理解させる。 ・価値のプラス面として主人公がどう受け止めたか追体験させる。 ・資料を通して考えたことや自分の経験を振り返りながら考えさせる。
	5 教室に掲示してある詩を紹介する。		<ul style="list-style-type: none"> ・余韻を持って終わる。

6 評価

- (1) 相手の立場に立って広い心で接していこうとする心情が育てられたか。
- (2) 自分の在り方を反省し、向上に努めようとする心情が育ったか。

7 資料分析図(なみだ)



なみだ

ケガ

激しい痛み・肉を切開する音
体中の血が逆流したような感じ

君のお母さんの涙

- ・和美さんにすまないことをした。
- ・息子がしでかしたことなので申し訳ない。

『私のことなんかより・・・』と考える主人公

せつかく謝りに来たのに、
その気持ちを素直に受け入れないのは悪い
駆けつけて見舞いに来てくれたのに否定的に考えるのは悪い
激しい痛みなのだから仕方がない。
被害者側なので、そう思うのは仕方がない

絵 1

あの涙は何のためだったのだろうか？

和美の涙

時間が経って、冷静に考えることができるようになったから。
S君のお母さんが、けがをした自分の辛い気持ちにな
なってくれたことに気づいたから

絵 2

たいしたことないよ

一番価値のある涙とは

価値ある涙

他人を思いやる気持ちから出た涙
気持ちを理解して流した涙
人の想いを考えて流した涙

15	なみだ	名前	組番
----	-----	----	----

☆ 考えてみよう1

☆ 考えてみよう2

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

☆ 振り返ってみよう

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
